

World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺產 小笠原諸島



World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺產
小笠原諸島



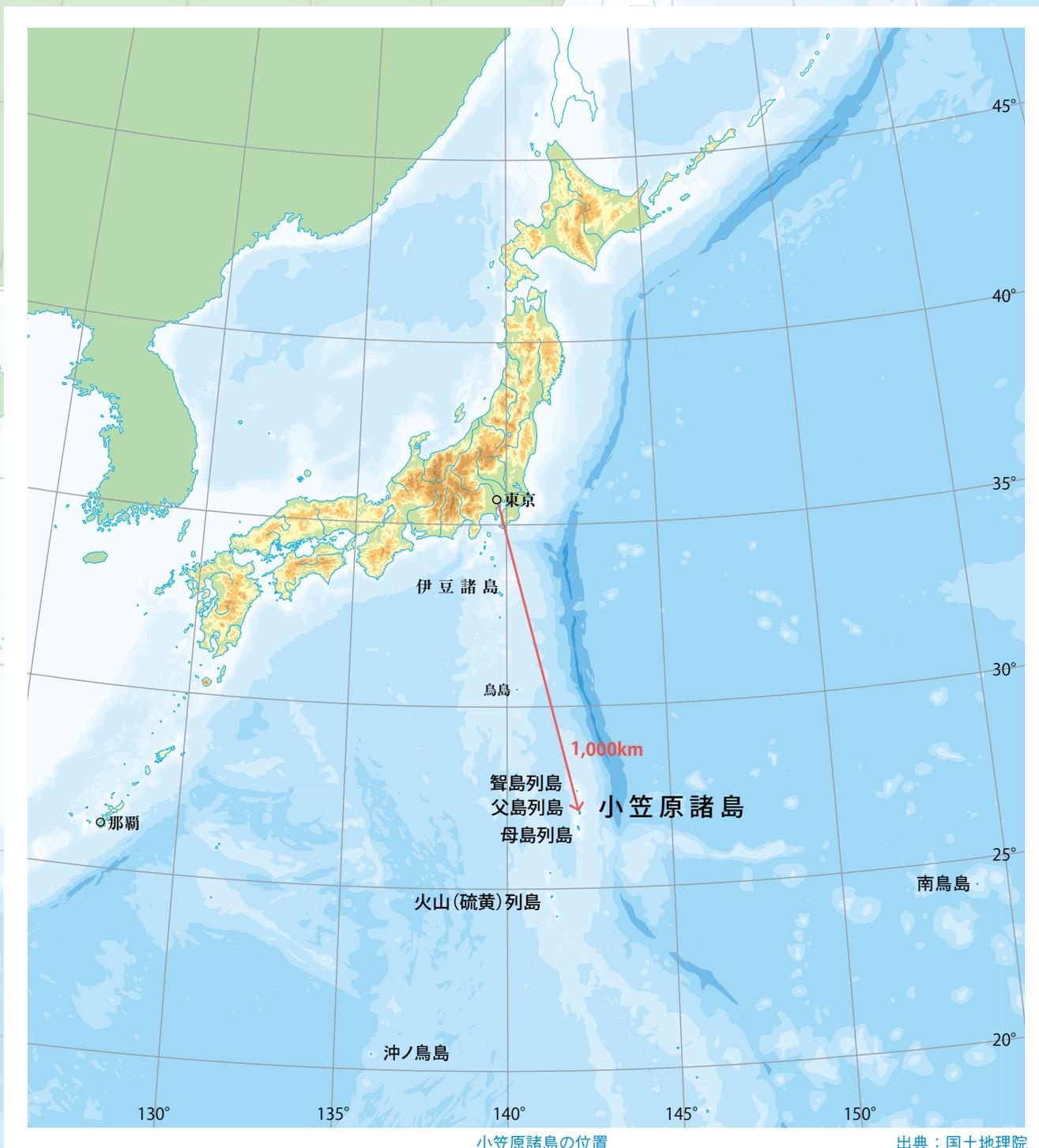
小笠原諸島ってどんなところ？

【小笠原の地理】

小笠原諸島は、東京から約 1,000km 南にある、30 あまりの島々の総称で、島の誕生以来大陸と陸続きとなっていない海洋島です。北から、聳島列島、父島列島、母島列島、さらに 250km ほど南に火山（硫黄）列島があり、その他日本最東端の南鳥島、最南端の沖ノ鳥島などを含めた島々が、東京都小笠原村です。緯度は沖縄とほぼ同じ（父島で北緯 27 度）で、亜熱帯に位置します。気候は亜熱帯海洋性気候に属し、四季温暖多湿で年間平均気温は 23℃、冬季でも 18℃で、雪や霜を見ることはまったくありません。年間降

水量は約 1,300mm と東京よりやや少なめです。多くの島のうち、一般の人が住んでいるのは父島（約 2,000 人）と母島（約 450 人）のみです。

小笠原には空港がなく、渡島のための交通手段は、東京・竹芝桟橋から出航する定期船「おがさわら丸」のみです。船は朝 10 時に出航し、約 25 時間 30 分の船旅を経て、翌日 11 時 30 分に父島・二見港に到着します。母島へは父島から「ははしま丸」で約 2 時間 10 分です。



小笠原諸島の位置

出典：国土地理院



【小笠原の歴史】

小笠原諸島は、1593年（文禄2年）に小笠原貞頼が発見したと伝えられています。

1830年（文政13年）までは無人島で、最初に小笠原に住んだのは5名の欧米人とハワイを主とする太平洋諸島民でした。

1860年（安政7年）ごろから日本からの本格的な移民が始まり、戦前はサイパンなど南洋諸島への中継基地として重要な役割を果たしていました。

太平洋戦争末期の1944年（昭和19年）には多くの島民が本土へ強制疎開させられ、戦後も、一部の欧米系島民を除いて島に戻ることができませんでした。1968年（昭和43年）6月に小笠原は23年ぶりに日本に返還され、島民の帰島がようやくかなうようになりました。硫黄島は返還後も火山活動など自然条件が厳しいとの理由により一般住民の帰島は実現しておらず、現在は自衛隊の基地が置かれています。

1979年（昭和54年）には村政が確立され、現在まで自然との共生を目指した村づくりが続けられています。

母島乳房山から沖港を望む



戦前の開拓時代の小笠原



昭和初期の父島大村

父島境浦の沈船



返還式典（父島）

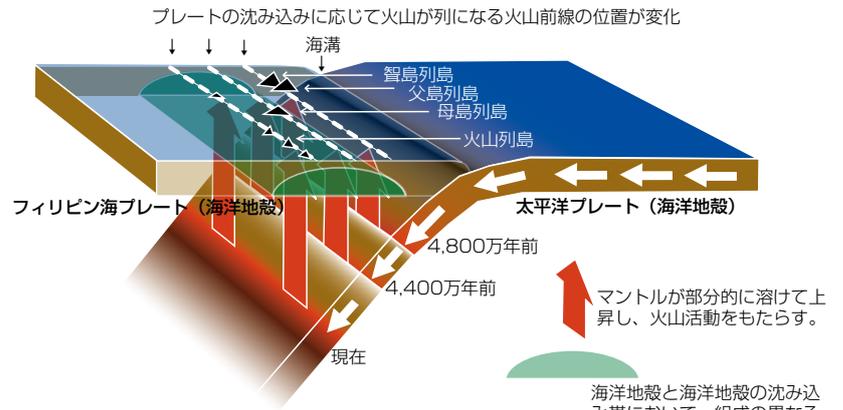
小笠原諸島の持つ自然

小笠原諸島では、亜熱帯の気候や大陸と陸続きとなったことがない海洋島であることから、独特の素晴らしい自然を見ることができます。

【小笠原の地形・地質】

小笠原諸島は、大陸形成の始まりとなるプレート同士のぶつかり合いと、その後の沈み込みの初期段階から現在に至る地質的な成長過程を、陸上に露出した岩石や地層の中に記録しています。

こうした活動により、小笠原ではいろいろな珍しい岩石・地形を見ることができます。



模式図：プレートの沈み込みと火山活動の位置の変化（小笠原諸島の発達史）



ラビエ（南島）



ハートロック（父島千尋岩）



うぐいす砂（父島釣浜）

【小笠原固有の生きもの】

小笠原諸島は、大陸と一度も陸続きにならなかったことがないため、海を越えて辿り着いた生きものは、独自の進化を遂げました。

その結果、小笠原にしかない固有の生きものの割合が高く、植物（維管束植物）で36%、昆虫類では28%、陸産貝類では94%にもなります。



湿性高木林（多くの固有種がすむ林）



オトメカタマイマイ（固有種）



アカガシラカラスバト（固有亜種）



サンゴ礁 (母島北港)



バンドウイルカ



ザトウクジラ (シーズンは1月~4月)

【小笠原の海】

小笠原の海は、濃い青色をしています。サンゴ礁や色とりどりの熱帯魚、海中へ向かって鋭く落ち込む黒い岩肌など、多彩な海中景観が広がっています。また、小笠原諸島の周辺には数多くのイルカやクジラなどが生息しており、日本最大のアオウミガメの産卵地でもあるなど、海においても様々な生きものを見ることができます。

小笠原諸島は世界自然遺産へ

世界遺産は、将来に引き継いでいくべき世界共通のかけがえのない財産です。このような素晴らしい自然を持つ「小笠原諸島」は、生態系（ほかの地域にはない特徴的な生きものの進化や生きもの同士のつながりが見られる地域）の価値を持つことが認められ、2011年(平成23年)6月、屋久島、白神山地、知床に次ぐ日本で4番目の世界自然遺産に登録されました。



国際自然保護連合 (IUCN) による現地調査の様子

2003年5月 (平成15年)	「世界自然遺産候補地に関する検討会」(環境省、林野庁)において、小笠原諸島を我が国の世界自然遺産候補地として選定
2007年1月 (平成19年)	ユネスコ世界遺産センターへ暫定リスト提出
2010年1月 (平成22年) 7月	ユネスコ世界遺産センターへ推薦書類を提出 国際自然保護連合(IUCN)による現地調査
2011年5月 (平成23年) 6月	国際自然保護連合(IUCN)が評価報告書を作成しユネスコ世界遺産センターへ提出 第35回世界遺産委員会において小笠原諸島の世界自然遺産登録決定

世界自然遺産「小笠原諸島」

【小笠原の持つ価値】

小笠原では、海によって隔てられた小さな島において独自の進化をとげた多くの固有の生きものや、それらが織りなす生態系を見ることができます。

小さな海洋島における生物の進化を示す典型的な見本として、世界的な価値を持つことが認められました。

もともと同じ種類の生きものが、環境の違いによって、そこに適した形や色へと変化し、多系統に分かれることを「適応放散」といいます。

例えば、小笠原のカタツムリのうち、カタマイマイというグループは、木の上で暮らすものは淡い色の、土の上で暮らすものは暗い色の殻を持つなど、適応放散によって色々な種類に進化してきました。化石(貝殻)や今生きている種類を比較することにより、進化の歴史が分かります。



母島南崎から見える島々



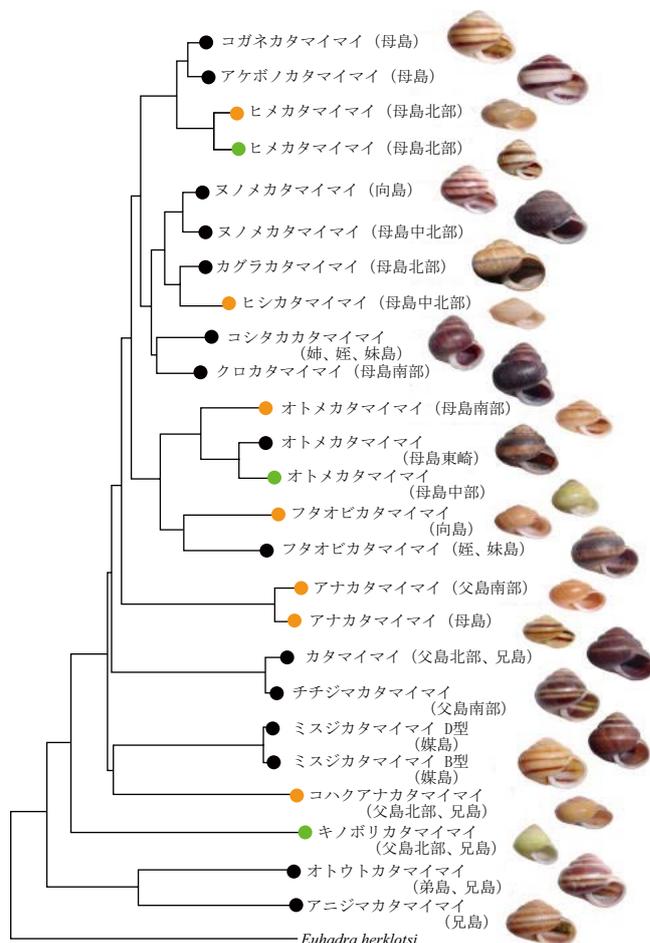
ヒロベソカタマイマイの半化石(南島)

また、父島や兄島では、「乾性低木林」と呼ばれる背の低い林がたくさん広がっています。乾性低木林は、父島や兄島の乾燥した気候に合わせて、葉の形を変えるなどの進化をした固有の植物たちが生育しています。

適応放散のほかにも、草が樹木へと変化したり、植物の雌雄が分かれるなど、海洋島に特徴的な進化様式を見ることが出来ます。



乾性低木林



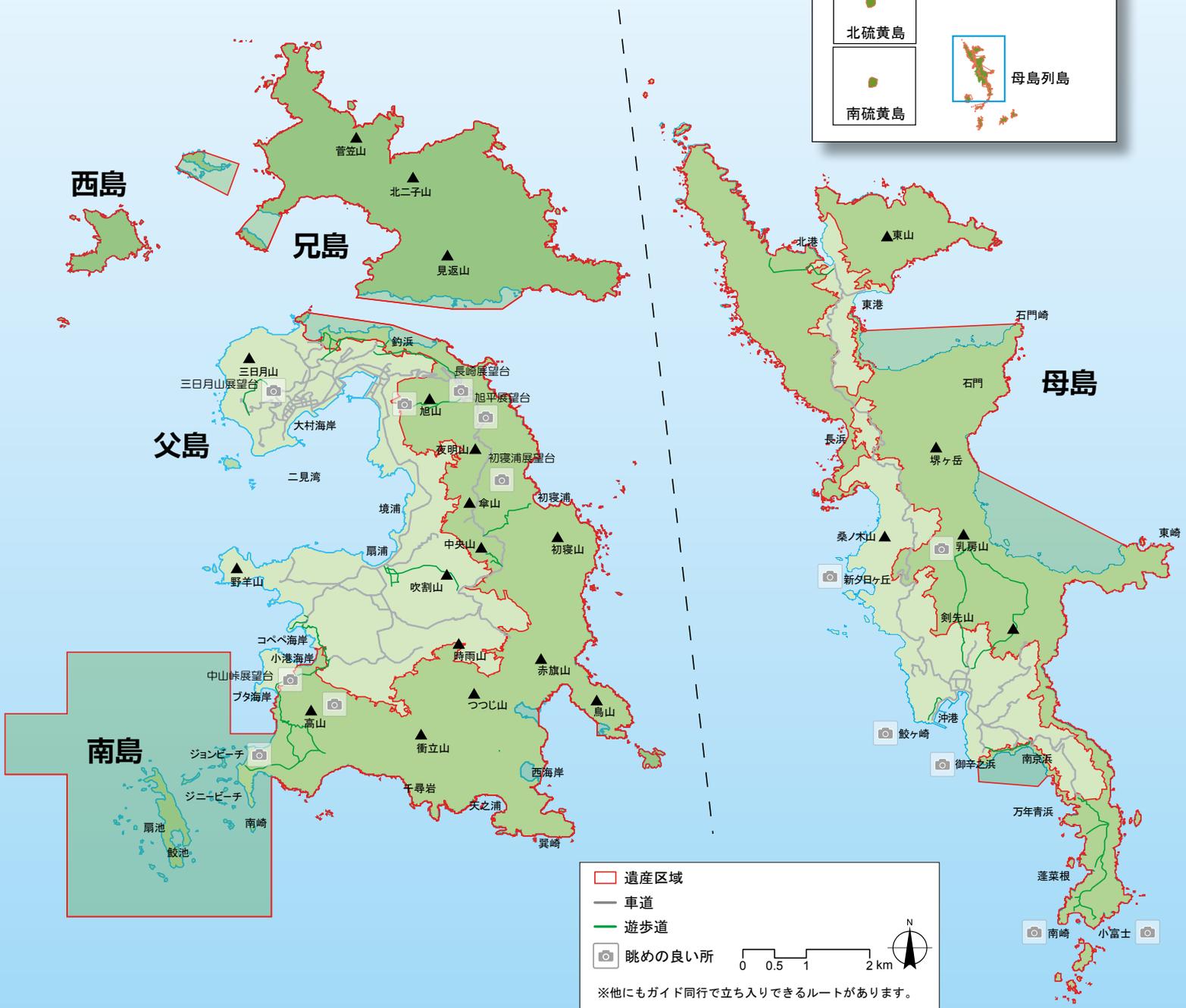
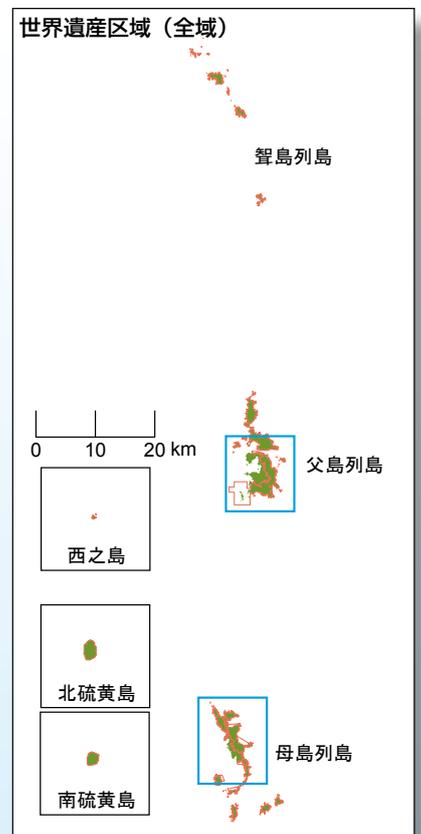
提供：千葉聡

カタマイマイの進化系統樹

【世界遺産区域】

小笠原諸島の中で、世界遺産の区域となっている島は、北から聳島列島、父島列島、母島列島、火山(硫黄)列島のうち北硫黄島と南硫黄島、西之島です。父島・母島では、集落地などを除いた陸域と、一部周辺の海域が世界遺産の区域となっています。

父島では、島の東部を中心に乾性低木林が広がり、そこに希少な生きものたちを見ることができます。南島では、美しい景観やヒロベソカタマイマイの貝殻などがあります。母島の石門にある湿性高木林は、固有種の宝庫です。



世界自然遺産「小笠原諸島」を守るために

【地域での取り組み】

小笠原諸島では、世界自然遺産として認められる自然を持つ一方、人によって他の土地から持ち込まれた外来種が、固有の生きものに大きな影響を与えています。

小笠原村では、島民を始め地元 NPO や環境省、林野庁、東京都と協力して、外来種の駆除の取組などを行っています。



ボランティアによる外来植物駆除



飼いネコの適正飼養のため、マイクロチップの装着を義務づけ



外来種ノヤギ・ノネコの侵入防止柵

【小笠原を訪れるみなさまへ】

世界自然遺産である小笠原の自然を後世に伝えていくために、みなさまのご協力をお願いします。

●外来種の侵入を防ぐ

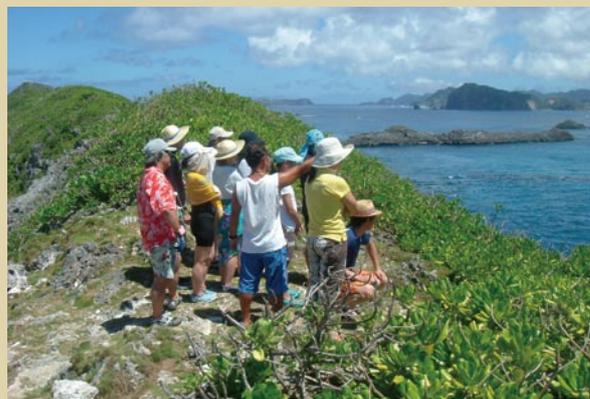
本来小笠原にいない生きものを持ち込んだり、他の島や山の中に拡げたりしないよう注意してください。船に乗る前や、山の中に行くときには、靴底の泥や服・かばんに種や虫などが付いていないか、チェックしましょう。



母島への外来種の移動を防ぐために、ははじま丸の下船時には靴に付いた泥を落としましょう

●小笠原の自然を守る

小笠原では、自然を守るためのさまざまなルールが定められています。決められたルートから踏み出さないようにする、ガイドの指示に従うなど、ルールを守って自然に親しみましょう。



南島及び母島石門一帯では、必ずガイドと同行し、決められたルートを利用しましょう

●観光に関するお問い合わせ

父島：小笠原村観光協会 TEL：04998-2-2587
<http://www.ogasawaramura.com/>

母島：小笠原母島観光協会 TEL：04998-3-2300
<http://www.hahajima.com/>

東京：小笠原村観光局 TEL：03-5776-2422
<http://www.visitogasawara.com/>

平成 23 年 6 月

制作・発行 小笠原村総務課企画政策室

〒100-2101 東京都小笠原村父島字西町

TEL：04998-2-3111 <http://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/>

協力 環境省、林野庁、東京都

編集 株式会社ブラック研究所

デザイン 株式会社サンワ



小笠原村はマセラティジャパン株式会社のエコプロジェクトのサポートを受け、世界遺産小笠原諸島の保全啓発活動のために本リーフレットを作成しました

Lovely Islands